

大阪船員保険病院だより

第46号 平成22年 3月

大阪船員保険病院

〒552-0021

大阪市港区築港1-8-30

TEL06-6572-5721

皮膚科紹介

皮膚科部長 西井 芳夫

皮膚科は平成22年1月現在、常勤医師1名（西井、月曜～金曜）、非常勤医師2名（村上医師月曜・木曜、梅垣医師 水曜）で午前中は主に外来診察、午後は手術、検査、入院患者の処置などを行っています。スタッフの数は看護師を入れても2～3名ときわめて小規模ですが、その分チームワークが良く、多くの患者さんを手厚く診させていただいております。時間外でも医師は私一人ですが、可能な限り対応させていただいておりますので、遠慮なく皮膚科外来にご連絡下さい（06-6572-5721）。



これまでの当科の診療の特徴としましては（1）急性期の疾患はなるべく入院などで速やかに症状の改善を計り（西洋医学的治療）、（2）慢性疾患については漢方薬を用いた治療を中心に（中医学的治療）、同時に（3）食養生を繰り返し詳細に指導する。（4）原因検索の一貫としてある程度スクリーニング的な検査を行い、癌などの悪性疾患を見逃さないようにすることであり、これからは如何にスピーディーで能率的に治療に当たることができるかを目標としております。出来る限り地域の先生方のお役に立てるようにいたしますので今後とも御支援のほどお願いいたします。代表的な疾患の治療のコンセプトを示します。

アトピー性皮膚炎

食事指導（食材、食べ方、食べる時間と量）中心。次に外的な悪化要因を除く（例えば石鹸、シャンプー、リンス、化粧品による慢性的な刺激を取り除く）。そのために、パッチテストを適宜行います。治療については可能な限り入浴させない、外用剤はかぶれの時以外は使用しない。中医学弁証に基づく漢方治療（現在はエキス剤治療のみ）で体質改善を円滑に行う。漢方薬は薬価が安く、患者さんに必要以上に経済的負担をかけないという意味においても使用しています。

乾癬（かんせん）

社会的ストレスから、アルコール過飲と濃厚な味の食事を繰り返すことによる糖尿病、高血圧、肥満、肝機能障害、高尿酸血症など成人病をもつ人がほとんどです。出来る限り早期に食事指導を厳密に行い、ストレスとうまく付き合うように指導できればアトピー性皮膚炎よりは治療は早く改善可能です。慢性期の患者さんが多く、光線治療（ナローバンドUVB）、液体窒素による凍結療法など種々の治療を行いながら根気よく現実に則した生活指導を行います。

かぶれ（接触皮膚炎）

原因検索のためのパッチテスト。顔面の場合化粧指導。元々皮膚がかぶれ易くあざにすぐなる人は中医学的に言えば気虚（疲れやすい、息切れしやすいなどエネルギー不足）の人が多いため漢方薬で体質改善もします。



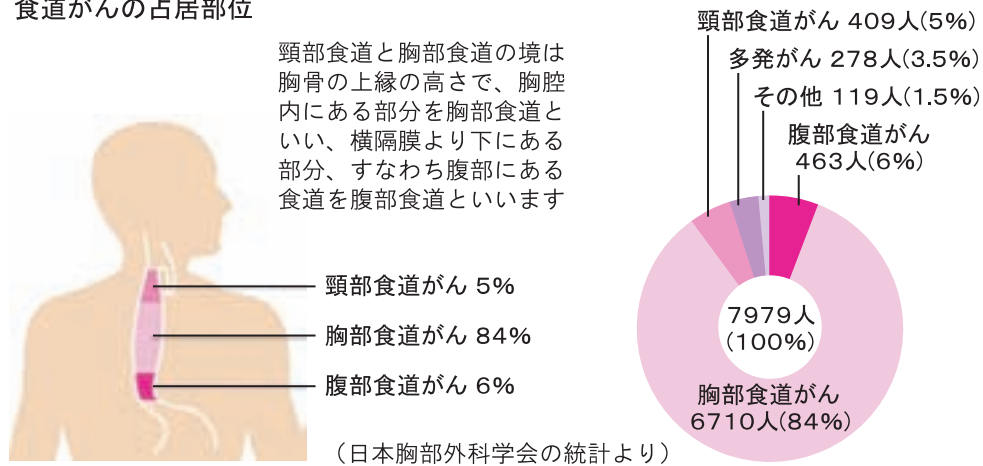
シミ（肝斑、老人性色素斑）

ハイドロキノン、アスコルビン酸の外用（いずれも自費）。サンスクリーンなどの化粧指導。レーザー治療は行わない（高価で、しかも再発が多い）。当科では中医美容皮膚科学の基礎に基づき漢方薬と食養生を行います。

～ 食道癌について～ 外科医長 藤田 正一郎

食道は、口と胃をつなぐ約25cmの細長い管のような臓器で、頸部食道、胸部食道、腹部食道に分けられます。食道の内面をおおっている粘膜は扁平上皮で、皮膚をおおっている組織とほとんど同じ形をしています。食道に発生する癌は、通常は扁平上皮癌で、円柱上皮などから発生する腺がんは比較的少ないのです。日本では**食道癌**の約95%が扁平上皮がんで、残りの約5%が腺癌です。

図1. 食道がんの占居部位



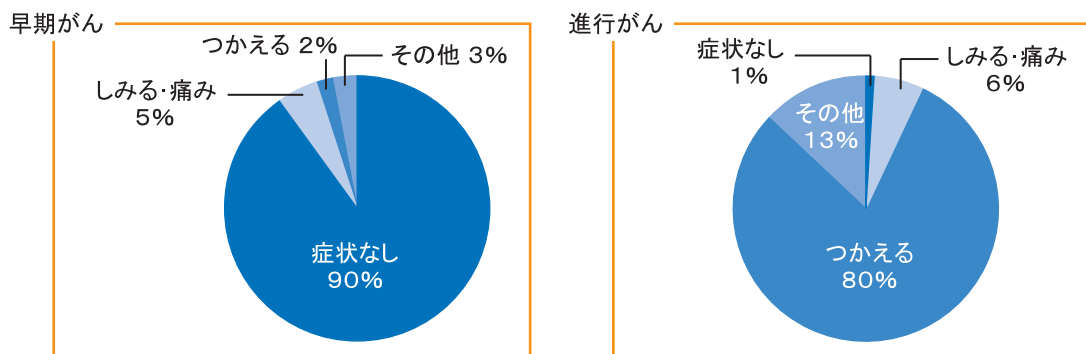
酒、たばこの関係が深い

食道癌の誘因として飲酒、喫煙との関連性があり、圧倒的に男性に多く（男性対女性比：約7対1）多喫煙、多飲酒の習慣がある人では**食道癌**の発生率は、吸わない・飲まない人の40倍との報告があります。また刺激物、熱い食事や熱いお茶などを好む人にも**食道癌**が多いといわれています。年齢分布では60代がもっとも多く、次いで50代、70代と比較的高齢者に多くみられます。**食道癌**にかかる人は人口10万人に対して男性15.1人、女性3.0人、全体で9.0人（粗罹患率）、年齢調整罹患率では男性13.6人、女性2.1人、全体で7.2人でほぼ横ばいです。厚生労働省による2002年の統計では**食道癌**による死亡率は人口10万人に対して男性約10人、女性約1.5人です。

食道癌の症状

食道癌の自覚症状はがんの進行度と部位によって多少異なります（図2）。

図2. 食道がんの症状



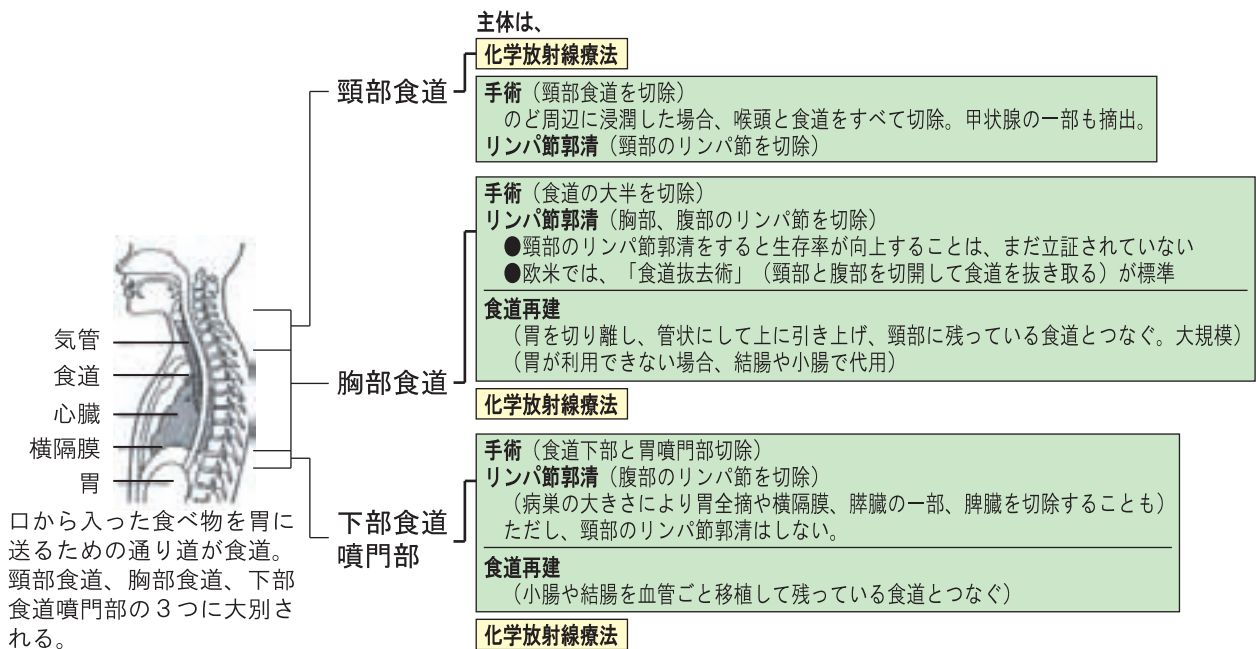
進行癌は、食べ物の「つかえ感」を訴えることが多くなります。食べ物が通過するときに痛みを感じることもあります。また、まったく症状がないこともまれにあります。食道の周りには気管、気管支、肺、大動脈、反回神経、脊柱などがあり、これらの**周囲臓器に浸潤してくると、食道の症状以外に、いろいろな症状が出てきます**（体重減少、吐血、せき、声がかれる、背部痛）。

食べ物のつかえ感は、特に急いで食べたときや、よくかまないで食べたときに出やすい傾向にあります。そのため、つかえ感を感じていても、**ゆっくりよくかんで食べれば、つかえなくなりますので、治ったと思い発見を遅らせることも少なくありません。**ただし、こういう場合は食事の時間が長くなりますので、よく注意していれば、家族がその変化に気づくことがあります。早期がんではその症状がやや異なります。症状がない人がほとんどで、食事のつかえ感を訴える人は進行がんと違ってずっと少なく、食道のしみる感じ、不快感、違和感を訴える人がいます。

食道癌の治療

現在、当院においては、治療は**手術**を中心として、**放射線と抗がん剤を組み合わせた治療**を行っています。問題になっているのは、どの患者さんにどの治療を行うかの選択です。手術は歴史も長く、とくに日本では広範囲のリンパ節を郭清する拡大手術によって欧米に比べて高い手術成績をあげています。しかし、反面、手術は大がかりであるだけに体力の消耗や合併症、後遺症も大きく、それに比して胃がんや大腸がんほど治療成績が高くないといった問題点が指摘されています。これに対して、放射線と抗がん剤治療は食道を残して治療ができることが最大のメリットです。しかし、まだ歴史も新しく、手術と比較してどちらが優れているのか、科学的な検証は行われていません。そのため、現在、**食道がんの治療**では、1期から3期にかけては**手術と化学放射線治療という二つの選択肢が存在**しています。したがって、治療法を選択においては、手術と化学放射線治療それぞれの長短、利益と不利益を十分に理解し、現在までの研究結果などを知った上で、患者さん本人が医師と相談しながら決めていくことが、非常に重要になってくるのです。

もし御自分や周囲のかたで、食道癌、食道のことでお悩みであれば、一度、外科外来の方に
お越しください。改めて詳しくご説明致します。



大阪船員保険病院の理念

理念：やさしさと安心の医療で人々につくします

基本方針：1. 患者さんの立場にたった適切な医療を提供します

2. 地域に信頼される中核病院をめざします

3. 患者さんの権利を尊重します

4. 地域の医療機関との連携を推進します

5. 病院職員は、より高度の医療を提供できるよう研鑽に努めます

6. 病院経営の効率化を図り、健全経営に努めます

登録医紹介



院長 賀来 清高

すぐお隣の大阪船員保険病院さん

賀来 医院

市バスの「三條通り四丁目（現・大阪港駅前）」停留所前に店開きしてから六十有余年、当時は“歎義堂”の屋号もあり、古い患者さんは今でも“歎義堂さん”と呼んでくれますが、今はそれも無くなりただの“賀来医院”、そして「活かすも潰すも三代目」の三代目院長が私です。先代までは産婦人科を標榜していたので患者さんの中には当院で生まれた人も多いたか。もちろん今はやっていませんが・・・。“何でも診れる医者”が求められる昨今、私は一応、循環器内科を専攻してきましたが、一開業医の力などたかが知れています。そんな時、大いに力を貸して頂いているのがすぐお隣の大阪船員保険病院さん。科を問わず先生方をはじめ事務の方々にも大変お世話になっています。とにかく“近い”ので、緊急入院をお願いするときでも救急車を呼ばずに、患者さんと一緒に歩いて行ったことも多々あります。それやこれやで“登録医”のありがたい称号も頂戴しておりますが、どうかこれからも見捨てることなくよろしくお願いします。

診療時間	月	火	水	木	金	土
午前 9:00~13:30	○	○	○	○	○	○
午後 17:30~20:00	○	○	/	○	○	/

診療科：内科、小児科、皮膚科

TEL：06-6571-2659

住所：大阪市港区築港1丁目14-31



『健康寿命を延ばすために』

太田整形外科クリニック

弁天町のクロスシティ2階で開業しております太田です。勤務医時代は脊椎外科医として20年余り椎間板ヘルニアや脊柱管狭窄症の手術に携わってきました。開業以来3年間で約6500人の初診の患者さんを診察させていただき、その中のたくさんの患者さんが船員保険病院にお世話になっております。私自身開業医として、まだまだ新米で「地域医療に貢献する」という本当の意味は解っていないように思います。しかし、我々地域の医師が船員保険病院を中心として協力し、例えばメタボリック症候群や認知症や最近話題になっているロコモティブ症候群（筋肉や骨の変性で運動・移動能力が低下すること）の予防や治療に関して共通した認識を持ち、実施することで港区の寝たきりや要介護の率を減少させること、つまり区民の『健康寿命』を延ばすことができないかと考えております。

これからも初心を忘れないように頑張りたいと思っています。



院長 太田 信彦



診療時間	月	火	水	木	金	土
午前 9:00~12:30	○	○	○	○	○	○
午後 16:30~19:00	○	○	○	/	○	/

診療科：整形外科、リハビリテーション科、リウマチ科

TEL：06-6576-1800

住所：大阪市港区弁天1丁目3-3 クロスシティ弁天町 2F

HP：<http://www.ohata-seikeigeka.com/>